

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 伊豆高原分校 P T A
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 伊豆高原分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部

1. 使用状況

寄贈物品名	エイサー太鼓 3台
使用学年及び人数	全学年 48人
使用頻度	週1回
使用状況	今年度、1学期はエイサー選択生徒が『島人ぬ宝』、2学期には全学年全員で『ダイナミック琉球』を題材にエイサーに取り組んでいます。 昨年度まで修学旅行先が沖縄だったため、沖縄から帰ってきた生徒が本場のエイサーの迫力等を伝えてくれ、生徒の意欲付けになっていました。 今年度は新型コロナウイルス対応のため、修学旅行先が変更になってしまいましたが、本場の映像を視聴して、同じ楽器を使って演奏・演舞できることはとてもうれしく、意欲的に活動できています。
物品の使用による変化や効果	3台のエイサー太鼓を寄贈して頂けたことでエイサー太鼓が6台に増え、縦割りグループを組んで順番に叩く単元が組めるようになりました。全員が太鼓に触れることができ、楽しんで活動しています。 また、台数が増えることによって音量も増し、迫力のある演奏ができるようになりました。
今後の活用の見通しや課題	修学旅行先は沖縄から別の場所に変更になる見通しではありますが、エイサーは、太鼓・パーランクーのリズムアンサンブル要素、踊りの身体表現要素と複数の要素が組み合わさっており、複雑ですが教材としては奥深いと感じています。継続した活動にしていきたいと考えています。 課題としては、音楽教員の異動により引き継ぎがうまくいかなくなってしまうことがあげられます。文書等を残し、確実に引き継がれるようにしていきたいと思えます。
その他希望や所感など	楽器に触れる機会を増やし、本物の良さを感じて、伊豆高原分校の伝統にしていきたいと感じています。音色やインザッツをそろえる精度を上げる等、より深い学びを追求することも楽器があるからこそできることで、寄贈して頂いたこと、本当に感謝しております。

2. 活用の様子

1学期はエイサーを選択した生徒のみで活動しました。(他に和太鼓・合奏のグループがありました。)衣装も購入し、パーランカーと合わせて、『島人ぬ宝』を凌雲祭のステージ発表(今年度は6月から10月に延期になり録画による演奏)で披露しました。



2学期は全員でエイサーに取り組んでいます。3台寄贈していただいたおかげで全校を縦割りで5つのグループに分け、全員が太鼓に触れる単元を組めるようになりました。これは緑グループの写真です。ほかに赤・青・きいろ・オレンジと5つのグループがあります。

